

おきなわ芸能フェスティバル2019 ~あけもどろ~

本市をはじめ県内外の地域文化芸能が大集結する「おきなわ芸能フェスティバル」。今回は、11月3日に沖縄こどもの国で開催し、約8,400人が来場しました。

地域文化芸能が一堂に集う水と緑の広場の「ニライカナイステージ」、ヒップ・ホップやフラダンスなど一般公募によるさまざまなジャンルのパフォーマンスが楽しめるハイビスクス広場の「ちゃんぷるくステージ」、クラブト締太鼓づくりやボディペイントなど参加体験型のワークショップを開催したZOOスクールの「美童(みやらび)ステージ」、うちなー紙芝居や大道芸等が繰り広げられたふるさと園の「遊び庭ステージ」の4つのステージ等が設けられました。

沖縄市芸能団体協議会や泡瀬京太郎保存会、胡屋仲宗根遊び獅子、久保田青年会の市内の団体のほか、八重瀬町や名護市、愛知県や岩手県など県内外の伝統芸能、ダンスやパフォーマンスが行われ、園内は華やかな雰囲気でも賑わいました。

フィナーレには、岩手県の金津流梁川獅子躍と東海市吟剣詩舞道クラブ、胡屋仲宗根遊び獅子、久保田青年会のコラボレーションによる「あけもどろ」が披露されたあと、全出演者と来場者のカチャーシーで最高潮の盛り上がりの中幕を下ろしました。



▲ぶながやぐわぁ & BUNAGAYA



▲仲尾次の高砂(名護市・仲尾次文化部)



▲富盛の唐人行列(八重瀬町・富盛伝統芸能保存会)



▲獅子躍(岩手県・金津流梁川獅子躍)



▲歌謡詩舞(愛知県・東海市吟剣詩舞道クラブ)



▲りんけんバンド

りんけんバンドによる沖縄ポップのほか、オープンングを飾ったティンクティンク、中の町青年会のエイサー、大工哲弘さんの繰り広げた八重山民謡、前田博美さんによる沖永良部島の唄や新垣成世さんの民謡など、県内の伝統芸能が披露されました。

地域にある音楽や芸能をもう一度見つめなおし、足もとにあるルーツ・宝物と再会を奏でる日「根っここの音に感謝しよう」というコンセプトのもと「第8回根音ウマチー」を11月9日に開催しました。

根音ウマチー
〜根っここの音に感謝する日〜



▲ティンク・ティンク



▲新垣成世さん



▲前田博美さん



▲八重山民謡の第一人者 大工哲弘さん